

平成27年度 事業計画

公益社団法人日本ホッケー協会は、我が国におけるホッケー界を統括し代表する団体として、ホッケー競技の普及及び振興を図り、もって国民の体力の向上とスポーツ精神の涵養に寄与することが目的であり、以下に記載の事業を、この目的を達成するため行う。

平成27年度においては、6月から7月にかけてアルゼンチンまたベルギーで開催される「男子ワールドリーグセミファイナル」「女子ワールドリーグセミファイナル」において、男女日本代表が10カ国中3位以内に入賞を果たし、「2016リオデジャネイロオリンピック」に男女同時出場という、ホッケー界長年の悲願達成を最大の目標としている。

併せて、ホッケー競技の普及に必要な財政基盤の確立と、公益法人として相応しい組織運営に努める。

<平成27年度 基本8策>

- (1) スポーツの楽しさ・素晴らしさを求めるスポーツ少年団から、生きがいのある社会の形成と、健全な心身の維持・向上に寄与するマスターズに至るまで、ホッケー競技人口増加を目指し、普及と指導者の育成に努める。
- (2) 「2020東京オリンピック」に向けて、ジュニア層からの強化に精力を注ぎ、一貫指導体制の 카테고리を精査して、スタッフの人選及び指導方針を確立させ、充実した強化体制を構築する。
- (3) オリンピック、ワールドカップ等の国際競技大会への派遣を視野に入れた、男女国際審判員の養成と充実を図る。
- (4) 「2020東京オリンピック」開催決定を好機に、ホッケー競技が日本国内に浸透するよう機能的かつ効果的な広報活動に努める。
- (5) 国際ホッケー連盟 (FIH)、アジアホッケー連盟 (AHF) 及び各国協会と密接な連携を行い、諸外国と積極的に交流を図ると共に、国際各種委員会委員の委嘱が受けられるよう努める。
- (6) アンチドーピングや環境問題の啓発と実践に積極的に取り組む。
- (7) 長期的な収入基盤確立のため、スポンサー獲得に積極的に取り組む。
- (8) 倫理委員会にスポーツ指導における暴力行為に関する相談窓口の設置や、処分基準ガイドラインを策定する。

1. ホッケー競技の普及、指導者の育成に関する事業【公1】

(1) 第37回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、熊本県ホッケー協会

開催場所：小国町林間広場ホッケー場（熊本県／小国町）

開催期間：2015年8月8日（土）～8月10日（月）

本大会は、全国のスポーツ少年団代表が一同に会し、ホッケー競技の楽しさと喜びを体験し、より優れた技能とスポーツマンシップを身につけるための研修の場とすると共に、団員相互の交流を深め、仲間意識の連携を高めることを目的としている。

(2) 第45回全日本中学生ホッケー選手権大会

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、新潟県ホッケー協会

開催場所：新潟市城山運動公園多目的広場（新潟県／新潟市西蒲区峰岡）

開催期間：2015年8月15日（土）～8月17日（月）

本大会は、中学校教育の一環として中学校生徒に広くホッケー実践の場を与え、技術の向上とアマチュアスポーツ精神高揚を図る。

(3) 第16回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、福井県ホッケー協会

開催場所：福井県立ホッケー場、越前町宮朝日総合運動場（福井県／越前町）

開催期間：2015年11月7日（土）～11月8日（日）

本大会は、将来のオリンピック選手を育成するために実践の機会を与え、各都道府県中学生の11人制ホッケーの向上と心身ともに健全な中学校生徒の育成と生徒相互の親睦をはかることを目的としている。

(4) 公認コーチ養成講習会／専門科目講習会（ホッケー競技）

主催：公益財団法人日本体育協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：未定

開催期間：前期（7月予定）、後期（2016年1月予定）

目的；地域において、競技者育成のための指導にあたりるとともに、広域スポーツセンター及び各競技別トレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる者を養成する。

(5) 公認上級コーチ養成講習会専門科目講習会（ホッケー競技・全期）

主催：公益財団法人日本体育協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：未定

開催期間：2014年5月若しくは6月予定

目的：ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代から選抜された競技者の

育成強化にあたるとともに、国際大会等の各競技大会における監督・コーチとして競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる指導者を養成する。

(6) 指導教本の販売

名称：ホッケー指導教本／発行日：2013年8月29日（改訂版）

販売単価：1部につき2,000円

目的：各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させる。

【ホッケー競技の普及に関する取り組み】

- 各ブロック協会（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）との連携により、中長期的な視野に立った根本的な普及策を模索、検討し、その上で必要な施策を実施する。
- （公財）全国中学校体育連盟への加盟推進や、スポーツ拠点づくり推進事業の継続支援を通じて、中学校世代の更なる普及と発展を図る。また、全国大会及び予選大会を通じて、「マウスガードの義務化」を行うなど、成長期の生徒達に対する安全面への配慮について継続した取り組みを行う。
- 国体参加チーム数及び登録選手数が適切な数となるよう、（公財）日本体育協会と協議するとともに、連携を図る。
- マスターズ年代の諸活動を充実させることで、生涯スポーツとしての方向性を確立すると共に、地域における社会人組織の活性化を図る。
- 各都道府県協会と協働して、総合型地域スポーツクラブとの連携を図り、発展的な普及活動を模索する。
- 各ブロック協会（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）のブロック長会議と国内交流部会の役割を再認識し、其々の機能を分離させ、会議を単独開催とすることにより、効果的な組織運営を行う。

【指導者育成に関する取り組み】

- スポーツ少年団の活動指針である「発育と発達」に基づく指導を呼び掛け、ホッケーの楽しさを子供達に伝える。
- 公認指導者講習会を実施し、指導者の養成と指導技術の向上を図る。また、既資格取得者の資格更新システムを確立し、指導者が常に学ぶことの出来る機会を構築する。
- 国民体育大会をはじめ、（公社）日本ホッケー協会主催大会へ出場するチーム指導者への公認指導資格の義務付けを厳守させる。その為に、各都道府県で受講出来るよう、公認指導員及び上級指導員資格取得養成講習会の開催促進に取り組む。
- 一貫指導者教本に基づいた正しい指導を広く実践する。また、有資格指導者を組織化し、指導に関する情報を共有できる機能を整備する。

- U-21 までの指導体系を確立させ、シニア代表への意欲を持たせる。
 - U-21 までの海外派遣の機会を効果的に行い、「2020 東京オリンピック」を見据えた選手強化に併せて、海外における指導情報の収集を図る。
2. ホッケー競技の競技力の向上に関する事業、並びにホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の会等に対する代表者の選定及び派遣に関する事業【公1】

(1) 選手強化

■ 競技者支援

(独) 日本スポーツ振興センター「アスリート助成」を受け、対象競技者に向けた財政支援を行う。

■ 強化合宿、海外遠征

国内強化合宿 (シニア男子) / 年 12 回予定、国内強化合宿 (シニア女子) / 年 8 回予定

国内強化合宿 (ジュニア男子) / 年 3 回予定、国内強化合宿 (ジュニア女子) / 年 3 回予定

定

国内強化合宿 (ユース男子) / 年 1 回予定

海外遠征 (シニア男子) / 年 4 回予定、海外遠征 (シニア女子) / 年 5 回予定

海外遠征 (ジュニア男子) / 年 2 回予定、海外遠征 (ジュニア女子) / 年 2 回予定

海外遠征 (ユース男子) / 年 2 回予定、海外遠征 (ユース女子) / 年 1 回予定

日韓競技力向上スポーツ交流 (ユース男子・ユース女子) / 年 1 回

(2) 国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

「男子ワールドリーグセミファイナル」(シニア男子) / 開催国：アルゼンチン・ベルギー

(アルゼンチン) 開催期間：6月3日(水)～6月14日(日)

(ベルギー) 開催期間：2015年6月20日(土)～7月5日(日) ※どちらかの大会

に参加

「女子ワールドリーグセミファイナル」(シニア女子) / 開催国：ベルギー

開催期間：2015年6月20日(土)～7月5日(日)

「第7回女子ジュニアアジアカップ」(ジュニア女子) / 開催国：中華人民共和国

開催期間：2015年9月5日(土)～9月13日(日)

「第1回男子AHFカップ」(ユース男子) / 開催国：バングラディッシュ

開催期間：2015年10月3日(土)～10月11日(日)

「第8回男子ジュニアアジアカップ」(ジュニア男子) / 開催国：マレーシア

開催期間：2015年11月14日(土)～11月22日(日)

(3) 医科学サポート

国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿においてドクターやトレーナーを派遣、またドーピング検査を実施する。

(公財) 日本アンチドーピング機構発行の冊子を与え、啓蒙活動を行う。

【ホッケー競技の競技力の向上に関する取り組み】

- 男子代表チームに海外からのヘッドコーチ招聘を継続する。
- 男女ジュニア、ユース、ジュニアユース日本代表を恒常的に編成し、年代別一貫指導強化体制の下に、其々が「2016 リオデジャネイロオリンピック」、そして「2020 東京オリンピック」においてメダル獲得を念頭に入れた積極的な強化活動を実施し、国際競技力向上に繋げる。
- 一貫指導システム概念を具体化する方策として、競技者育成プログラム「ホッケーゴールドプラン」を段階的に始動、選手過程をレベル1(都道府県単位)・レベル2(ブロック)・レベル3(東・中・西地区)・レベル4(ナショナル)の4段階としている。
- 可能な限り、国際競技会を開催し、国際交流及び親善に寄与する。
- スポーツ基本法を具体化した、国立スポーツ科学センター(JISS)の、ジュニア期からトップレベルに至るまでの発掘・育成・強化に対するスポーツ医・科学・情報面からの高度な支援、国際競技大会におけるコンディショニング調整など効果的にJISSの指導を受け、内外の情報分析と医科学的見地を取り入れた代表チーム・選手個々人の競技力向上を図る。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)及び国際ホッケー連盟(FIH)と緊密に連絡を取り、アンチドーピングの周知徹底を図り、居場所情報や合宿時における講習会等を実施して、選手指導者に協力と義務を認識させる。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)の指導の下、国内主要大会においてドーピング検査を実施する。指導者にドーピング検査への協力徹底と、国内のドーピングコントロールオフィサー(DCO)の養成を図る。

【ホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の会等に対する代表者の選定及び派遣に関する取り組み】

- 男女日本代表チームの国際競技力向上を図り、2014年「第17回アジア競技大会」において、「2016 リオデジャネイロオリンピック」出場権を獲得すると共に、国際競技大会において、メダル獲得の目的目標を達成する。
- 「2016 リオデジャネイロオリンピック」男女同時出場を実現するため、国際競技力の向上を図り、国際ホッケー連盟(FIH)の主導するワールドレベルのランクアップを目指す。
- 国際競技会への各年代層代表チームの選手選考基準を設け、派遣事業の円滑化を図る。

3. ホッケー競技の国際競技大会、国内競技大会の開催に関する事業【公1】

(1) ホッケー競技に関する国際競技大会及び国内競技大会の開催

「第34回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、関東学生ホッケー連盟

開催場所：飯能市阿須ホッケー場、駿河台大学ホッケー場（埼玉県／飯能市）

開催期間：2015年7月9日（木）～7月12日（日）

「男子第78回・女子第57回全国高等学校ホッケー選手権大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、京都ホッケー協会

開催場所：グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場（京都府／船井郡京丹波町）

篠山総合スポーツセンター人工芝グラウンド（兵庫県／篠山市）

立命館大学茨木ホッケー場（大阪府／茨木市）

開催期間：2015年8月1日（土）～8月5日（水）

「男子第57回・女子第37回全日本社会人ホッケー選手権大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、岩手県ホッケー協会

開催場所：岩手町ホッケー場、岩手町総合グラウンド（岩手県／岩手郡岩手町）

開催期間：2015年9月19日（土）～9月23日（水・祝）

「第13回全日本マスターズホッケー大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、富山県ホッケー協会

開催場所：小矢部ホッケー場（富山県／小矢部市）

開催期間：2015年9月26日（土）～9月27日（日）

「第70回国民体育大会ホッケー競技」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、和歌山県ホッケー協会

開催場所：紀美野町スポーツ公園多目的人工芝グラウンド（和歌山県／紀美野町）

マツゲンスポーツグラウンド（和歌山県／日高町）

開催期間：2015年10月1日（木）～10月5日（月）

「男子第64回・女子第37回全日本学生ホッケー選手権大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、関西学生ホッケー連盟

開催場所：立命館大学茨木ホッケー場（大阪府／茨木市）

天理大学親里ホッケー場（奈良県／柚之内町）

開催期間：2015年10月30日（金）～11月3日（火・祝）

「第76回全日本女子ホッケー選手権大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、広島県ホッケー協会

開催場所：広島広域公園第二球技場（広島県／広島市）

開催期間：2015年11月13日（金）～11月15日（日）※グループリーグ

2015年11月22日（日）～11月23日（月・祝）※決勝トーナメント

「第 89 回全日本男子ホッケー選手権大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、奈良県ホッケー協会

開催場所：天理大学親里ホッケー場（奈良県／柚之内町）

開催期間：2015 年 12 月 11 日（金）～12 月 13 日（日）※グループリーグ

2015 年 12 月 19 日（土）～12 月 20 日（日）※決勝トーナメント

「第 47 回全国高等学校選抜ホッケー大会」

共催：公益社団法人日本ホッケー協会、岐阜県ホッケー協会

開催場所：岐阜県グリーンスタジアム（岐阜県／各務原市）

開催期間：2016 年 3 月 26 日（土）～3 月 30 日（水）

（2）登録

競技大会への出場、また公認競技役員資格取得のため、登録を実施する。

各都道府県協会を窓口として、本協会に登録情報を集約データ化し、管理を行う。

（3）競技規則の制定及びホッケー競技規則（ルールブック）の発行

国際ホッケー連盟（FIH）が制定する競技規則をもとに、国内用の規則を制定しており、これらの諸規定

をまとめた「ホッケー競技規則（ルールブック）」及び「競技運営規定」を 2 年に一度発行、配布を行っているが、現在は公式ホームページからもデータのダウンロード可能としている。

（4）施設・用器具の検定及び公認

日本国内におけるホッケー競技発展の為、本協会の規定に定める要件を満たす人工芝施設の公認を推進、また競技者の安全と快適なプレイを守る為、用器具の検定も実施する。

【ホッケー競技の国際競技大会、国内競技大会の開催に関する取り組み】

- （公社）日本ホッケー協会が主催する大会や、共催する大会へ競技役員を派遣し、充実した競技運営と円滑な大会運営を行う。
- 国内競技大会の大会有料化等、運営の抜本的な見直しを行い、中長期的視野に立脚した競技会の実施方法を確立する。
- 国内競技大会主催・共催の各都道府県協会、ブロック協会、関係団体等と大会の日程及び会場の調整や、参加資格・競技規則等の整備を行い、大会の充実と活性化を図る。
- （公財）日本体育協会及び開催都道府県と連携を保ち、国民体育大会及びリハーサル大会（主に全日本社会人ホッケー選手権大会）を含めて円滑な運営を図る。
- HOCKEYハンドブックは国際基準を基に、国内事業に合わせて作成する。尚、変更等については技術委員会競技部が中心となり、改定し発行する。

- 「ホッケー競技場施設基準」に関する全ての事項は、技術委員会施設用具部が管轄し、それに関わる全ての業務を行う。
- 施設用器具公認制度の円滑な実施を図る。
- 人工芝製造販売企業指定生後の円滑な実施を図り、高い水準での競技施設の設置を推進する。

(5) 審判員の資格付与

(6) 競技役員の資格付与

審判員については、本協会が定める「公認審判員規程」に則り、A級、B級、C級審判員資格を付与している。また本協会は、国際ホッケー連盟 (FIH) やアジアホッケー連盟 (AHF) の加盟団体として、適格なレベルに達した審判員を国際審判員に推薦している。

競技役員については、本協会が定める「公認トーナメントディレクター (TD)、テクニカルオフィサー (TO)、ジャッジ (J) 規程」に則り、資格を付与している。また国際ホッケー連盟 (FIH) やアジアホッケー連盟 (AHF) の加盟団体として、適格なレベルに達したオフィシャルを国際オフィシャルに推薦している。

【審判員・競技役員の資格付与に関する取り組み】

- 審判講習会及び研修会を実施し、審判員の養成と審判技術の向上を図る。
- 資格審査室を設置して、公認トーナメントディレクター (TD)、テクニカルオフィサー (TO)、ジャッジ (J)、A級、B級審判員の資格認定を行う。
また、国内競技大会開催中に不足の事態が発生した場合、その関係者の資格についても審議する。
- 国際競技大会への審判員、競技役員の派遣業務を的確に行い、依り一層推進する。
- オリンピック、ワールドカップ等の国際競技大会を視野に入れた国際審判員の養成と充実を図る。
また、当面の目標として「2016 リオデジャネイロオリンピック」派遣審判員を育てる。
- 女性の審判員及び競技役員の養成と育成を図る。
- 海外との審判員交流を図り、国内の審判員の技術向上と国際視野に立った審判員を育てる事業を行う。
- 他競技団体との連携を密にし、他競技の有効なシステムを取り入れ、審判員と競技役員の組織活性化を図ると共に、資質の向上を目指すプログラムを推進する。

(7) 国際競技大会及び国内競技大会にて使用するアイテム (カード・リング・湾曲ゲージ)

初回登録料納入確認後に、認定証及び登録料と共に、競技必需品のアイテムを配布する。

4. 普及・広報活動【公1】

(1) メールマガジン

名称：「ホッケーメールマガジン」／発信月：毎月中旬発信予定

目的：ホッケー競技や本協会事業の各種情報を広く提供する。

(2) イヤーブック

名称：「ホッケーマガジン・イヤーブック」/毎年1回発行

販売単価：未定

目的：ホッケー競技や本協会事業の各種情報を広く提供する。

【普及・広報活動に関する取り組み】

- 「2020 東京オリンピック」に向けて、ホッケー競技が日本国内に浸透するよう、より機能的な広報活動を行う。そのため、「マガジンチーム」「WEBチーム」「マスコミチーム」に広報委員会を分類する。
- メディアとの交流を密にし、継続的に記者発表やプレスリリースを行うと共に、中央紙や在京キー局は勿論、ホッケーの情報を求めている地方紙や地方局との連携を強化し、取材体制をサポートする。
そのためにも、男女日本代表の「2016 リオデジャネイロオリンピック」出場を果たせるよう広報委員会としても積極的にバックアップして盛り上げる。
- 公式ホームページの内容充実とスピード化、インターネット情報の充実を図る。デザインやスピーディーな更新、フォルダの整理や動画の掲載を充実させ、公式サイトのアクセスを 3,000/日実現を目指す。また動画については、新たに小・中学校の配信の実施を図る。
- インターネットツールを活用し、適宜幅広い情報を効率良く提供する。
- 各都道府県協会との協働による、地域活動報告の継続的な広報活動を推進する。
- 地域団体事業委員会と連携し、「HOCKEY」の拡販に努める。

5. 国際活動【公1】

【国際活動に関わる取り組み】

- 日本のホッケー強化と国内における普及を目指し、国際ホッケー連盟（FIH）及びアジアホッケー連盟（AHF）と連携しながら国際活動を行う。両連盟の企画するイベントには出来る限り参加をし、協力する。
- 国際ホッケー連盟（FIH）及びアジアホッケー連盟（AHF）並びに各国ホッケー協会と連携して情報交換し、大会参加を通じて海外と積極的に交流活動を行う。
- 国際ホッケー連盟（FIH）及びアジアホッケー連盟（AHF）と密接な連絡を取ると共に、国際会議や国際競技大会等に参加し、最新の国際情報を取得する。

- 国際ホッケー連盟（FIH）及びアジアホッケー連盟（AHF）との更なる連携強化のため、対応窓口を設け、競技役員として国際的に活躍出来る人材の登用と育成を図る。
- 日本代表チーム等の国際競技大会、海外遠征の支援活動（連絡や交渉、情報収集）を行う。また、招聘情報を関連団体に提供する。
- 海外代表チーム等の日本への招聘事業に関しては、強化部との協力の下に行う。
- 日本国内における国際競技大会開催時に現地実行委員会、本協会事務局と共に、中心的な役割を果たす。
- （公財）日本オリンピック委員会等が主催する国際関係会議に参加する。

6.（公社）日本ホッケー協会諸会議等【法1】

平成27年度総会・理事会等の開催日程

（1）定時総会

開催場所：未定

開催日程：6月予定、日程未定

（2）理事会

開催場所：未定

開催日程：年2回予定、日程未定

（3）業務執行理事会

開催場所及び日程未定

【上記以外に関する取り組み】

- （公財）日本オリンピック委員会の諸事業に参画し、各事業の円滑な運営を図る。
- 「2020 東京オリンピック」に向けて特別委員会を設置し、競技運営・施設・組織を充実させ、ホッケー競技の成功を期す。
- 財政基盤強化の為、新規事業を立案し実施することで依り一層の収入増を図る。
- スティックカード（（公社）日本ホッケー協会会員証）の充実と、カード発行の依り一層のスピード化を図る。
- 内外の治安情勢に鑑み、諸活動を実施するにあたり、万全の危機管理体制を築く。
- 組織運営体制の充実を図り、マネジメント機能強化のガイドラインを設ける。
- 倫理委員会を設け、倫理に関する基本となるべき事項を定めることにより、本協会の目的と事業運営の公正を図る。
- 国際競技大会及び国内競技大会において、環境保全についての啓発と実施に取り組む。
- 個人情報保護法の遵守と周知徹底を図る。

7. マーケティング【収1】

我が国におけるホッケー競技の普及及び進行に関する事業目的の為、長期的な財政基盤
確立に

賛同する協賛企業とのパートナーシップ強化と、新たな協賛企業の獲得を目指して、本事業を実施する。

【マーケティングに関する取り組み】

- 長期的な収入基盤確立のため、オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と、事業毎の複数のスポンサー獲得計画の策定。
- 協賛企業の確保と新規協賛企業の拡大。
- 関連団体に対応する各事業部設置と、活動促進策。
- 財政基盤確立のため、地域団体事業委員会を中心に、各委員会による積極的な財源確保。